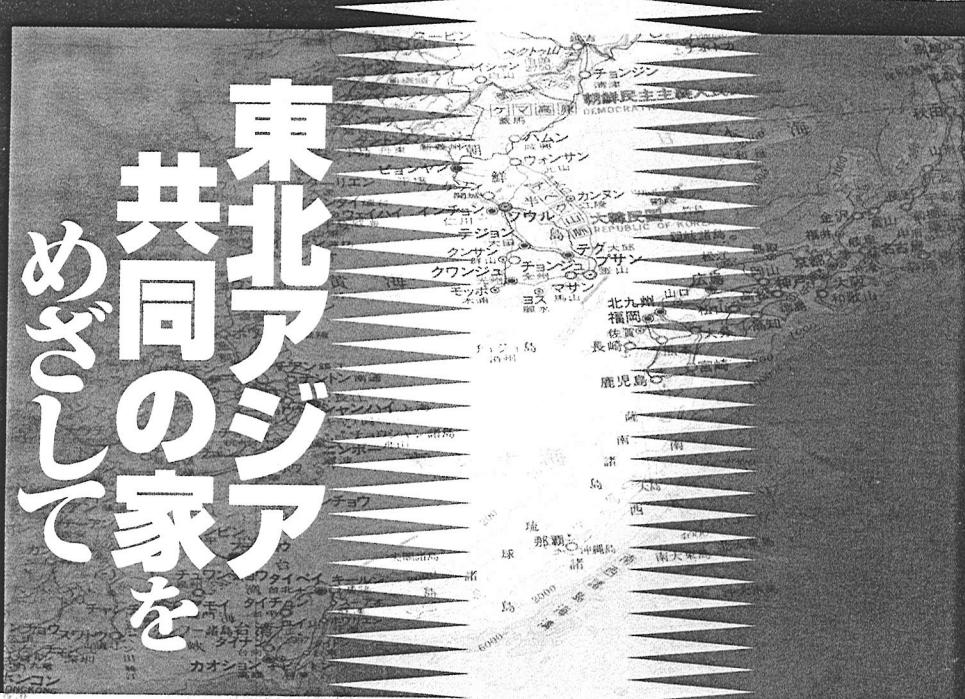


東北アジア  
共同の家を  
めざして

姜尚中

Kang Sang-jung

平凡社



ランスは、ナポレオン戦争以来、百年以上にわたって戦争を繰り返してしまいました。」のムイツそしてフランスという二つの隣国がタイアップしたところですが、EUという大きな統合に向かっていった大きな機関車であったことは、皆さん知つてのとおりであります。

そのためには、何が何でも日韓関係をこの独仏関係とアナロジカルなものにしていかなければならない。日本は、アメリカのみならず隣国である朝鮮半島とスクラムを組むことによって、日本一国ではできないことを朝鮮半島とともに実現できるのだといふことを力説しておきたいと思ひます。そのためにはどうしても、国境を越えた通信システム、なんばんずく衛星放送の国際化、これが非常に大きな役割として浮上しているところを申し述べておきたいわけであります。

われには、これは情報ハイウェー構想として、玄界灘を越えて、そしてやうらには朝鮮半島から北京あるいはロシアからヨーロッパへ、これは皆様も御存じのとおり、現在、北朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国と韓国との間に途絶した鉄路といふものが今開通しつつあります。これによつて、朝鮮半島は、シベリアからロシアを通じて西ヨーロッパにまで、陸路でやあがいほな物資交流ができるような時代になるでしょう。

もちろん、今、公共事業や国家財政の破綻状況を考えていきますと、玄界灘にトンネルを掘つて、フランスとイギリスのドーバー海峡のよつた形で、いわばそのような交通機関、運輸シ

ステムをつくら上げるところが現実的に可能かどうかは別にしません、いわば北海道から陸路でヨーロッパまで行けるような時代が来るかも知れないところ、二十一世紀はそのような新しい時代を我々に示しつつあるわけであります。

したがつて、北朝鮮と韓国との鉄路が開かれるところは、これは日本にとって大きなメリットがある。海を通じてヨーロッパに通じていく物流の流れと、陸路を通じて流れていく物流、人の交流といふものは、コストがいかに違うかといふことは、皆さんも知つてのとおりであります。そういう時代に二十一世紀は向かおうとしている。

いろいろ中で、日本は、そのような通信、情報、運輸システムのインフラストラクチャーに対してもどのような援助あるいは技術的なさまざまな供与ができるのか、いふことをぜひとも日本の方で率先して考えていただきたいと思うわけであります。

第一回目に、非常に難しい話でありますけれども、外交・安保システムについて私の所見を述べさせていただきたいと思います。

一言で言いますならば、日本は、基軸的な安全保障システムとしての日米安保を中心とする日米関係を少しずつ対等な普通の関係にしつつ、多極的な安全保障をつくらうことができるのかどうか、そこに私は二十一世紀日本の外交、安全保障システムにおける最大の課題があると思います。